

取り組みと課題

1. 環境に資する新技術に関する取組

- CONTRAILプロジェクト（民間航空機による包括的大気観測ネットワーク）による温室効果ガスの観測を国立環境研究所、気象研究所、日本航空、JAL財団と共同で実施中。またB777型機の後継機となるB787型機用に新たに自動大気サンプリング装置とCO2濃度連続測定装置を開発中。
- マルチマテリアルの接合技術として、東北大と共同でNEDOの先導研究プログラム「航空分野における現行接合以上の信頼性を達成するマルチマテリアル3D接合・最適成形技術の開発」を実施し、現行の接着剤接合と同等以上のせん断接着強度を発現させることに成功。将来的に構造の軽量化に繋がる直接接合の実用化への展開が期待される。
- 熱可塑性CFRPを活用した航空機用軽量機体部材の新たな成型技術を、川崎重工、新明和が参画しているNEDOプロジェクトにて開発中。軽量化とともにリサイクルという観点で環境課題への貢献が期待できる。

2. 標準化や、認証における課題

- 新たな航空機内装品の開発において、認証試験の中には容易に国内で実施できないものがある。（例：大型製品の振動試験、火災抑制試験、耐水試験、耐冷媒液試験、カビ抵抗性試験など）ただし、単に設備の問題だけでなく、有資格者の試験立ち合いや、試験手順に精通した試験要員の有無などの課題もある。

